

平成24年度病害虫発生予察特殊報第5号

平成24年11月29日
栃木県農業環境指導センター

チャトゲコナジラミの発生について

1 害虫名：チャトゲコナジラミ *Aleurocanthus camelliae* Kanmiya & Kasai

2 発生物名：チャ

3 発生経過

平成24年11月に県中部のチャ畑およびチャの生垣において葉にコナジラミ類によるすす病の症状が見られた。被害樹からコナジラミ類を採取し、農林水産省横浜植物防疫所に同定依頼した結果、本県では未発生のチャトゲコナジラミと判明した。本種は、平成16年に京都府で確認されて以降、国内各地から報告されており、埼玉県、茨城県、群馬県など周辺各県においても発生が確認されている。

なお、本種は当初ミカンコナジラミのチャ系統とされていたが、平成23年3月にチャトゲコナジラミとして新種記載された（Kanmiya et al., 2011）。

4 被害の特徴

成虫は新芽に集中的に寄生し、吸汁加害する。また、幼虫は葉裏に生息し、甘露を排出するため、葉にすす病を誘発する（図1）。

5 形態

卵は長さ約0.2mmの細長い勾玉状で淡黄色（図2）。4齢幼虫は体長約1mmで黒色、楕円形で背面に多数の刺毛を、周囲に白い口ウ物質を持つ（図3）。成虫の体長は雄は約1mm、雌は約1.3mmで、体は橙黄色、前翅は紫褐色で白い不整形の斑紋がある（図4）。



図1 すす病の発生した葉



図2 卵と幼虫（後方）



図3 4齢幼虫（左）と若齢幼虫



図4 葉に寄生する成虫

6 生活史・生態

卵から1～4齢幼虫を経て成虫となる。年3～4回発生する。越冬は3～4齢幼虫で行い、越冬後成虫の発生は一番茶新芽生育期と一致する。

7 防除対策

- (1)成虫は新葉、幼虫は下位葉裏で発生が多い。成虫は株を揺らすと飛び立つため、定期的によく観察し、早期発見に努める。
- (2)深刈り剪枝を行い、幼虫の寄生した枝葉を除去する。刈り落とした枝葉は、発生源となるため、放置せずに埋設などの方法で適切に処分する。
- (3)防除適期は若齢幼虫発生期である。成虫発生が減少した頃に、表の薬剤を散布する。
- (4)既発生地域からの苗による持ち込みに注意する。
- (5)サカキ、ヒサカキ、サザンカ、ヤブツバキ、シキミ等の樹木類にも寄生するため、ほ場周辺にそれら樹木がある場合には注意する。

表 チャのチャトゲコナジラミに登録のある薬剤（平成24年11月時点）

薬剤名	希釈倍数（倍）	使用時期	使用回数
コテツフロアブル	2,000	摘採7日前まで	2回以内
ダントツ水溶剤	2,000	摘採7日前まで	1回
ベニカ水溶剤	2,000	摘採7日前まで	1回
ダニゲッターフロアブル	2,000	摘採7日前まで	1回
コルト顆粒水和剤	3,000	摘採7日前まで	2回以内
ディアナSC	2,500～5,000	摘採7日前まで	1回
アプロード水和剤	1,000	摘採14日前まで	2回以内
ハチハチ乳剤/ハチハチフロアブル	1,000	摘採14日前まで	1回
アプロードエースフロアブル	1,000	摘採21日前まで	1回
ランネット45DF	1,000	摘採21日前まで	2回以内
トモノールS	100～150	5～9月	-
	50～100	10～3月	-
ラビサンスプレー	100～150	5～9月	-
	75	10～3月	-

注) 薬剤の選定については、最新の農薬登録情報をご確認ください。

8 参考資料

Kanmiya K., Ueda S., Kasai A., Yamashita K., Sato Y. & Yoshiyasu Y. (2011) Zootaxa 2797:25-44

ミカントゲコナジラミ（チャトゲコナジラミ）研究推進連絡会「チャの新害虫チャトゲコナジラミの防除マニュアル」(<http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/gaicyu/siryou2/index.html>)

詳しくは、農業環境指導センター(<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/>)までお問合せ下さい。

Tel (028) 626-3086 Fax (028) 626-3012